

「演題 だれが戦争をはじめめるのですか」

福島県立安積女子高校三年 山崎悦子



一色悦子 市居みか 絵

私は一八歳です。はじめに、この写真をパソコンでスクリーンに映しますので見てください。太平洋戦争半ば学徒出陣という、つめたい雨の中、学生が戦争に出て行くところ。たくさんの女子学生が見送っています。

一度見たら忘れられない写真です。

いまだれかが戦争をはじめると決めたら、私の周りの友人たちも、あの人も、戦争に行くのだとはっと気がつきました。にわかに恐ろしくなってきた、きょうのスピーチのタイトルを「だれが戦争をはじめますか」に決めました。

毎年、市の高校生のスピーチコンテストに選ばれるのはステータスなことなのですが、なぜかこんかいはだれもが辞退して、とうとう私が代表になったのです。

では、戦争はだれをはじめめるのか、ゴーサインを出す人がいなければはじまることはないのではないかと、私が今言いたいことを発表いたします。

次に、この写真を見てください。これは、それ以前、明治時代の日露戦争の時のものです。私の国は、このころも日清戦争に続いて戦争ばかりしていました。私が生まれてから、この国で戦争はありませんが、これからもずっとないとはいえない気がするので。

明治三十七年二月一〇日、ロシアへの開戦のあと、政治家原敬は二月一日にすぐに、日記にこんなことを書いていました。

これも大映しにします。

「わが国民の多くは戦争を望まなかったのは真実だ(略)」